

# 公助の真心

岡崎警察署

署長 後藤 安彦 氏



## 教育随想



令和4年1月1日

# 1月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎警察署 署長 後藤 安彦 氏	
この人に聞く……………	2
イタリア料理店 シェフ 鈴木 勇吾 氏	
羅針盤……………	2
生活科・総合的な学習指導員 廣瀬 浩司	
ふれあい……………	3
日本人学校 教諭 青山 高視	
特集……………	4
どうする 家康 ～若き日の選択 天下泰平への道～	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
富田 勲 氏 講演会(昭和50年)	
この本を……………	8

仏教の教えに「盲亀浮木<sup>もうきふぼく</sup>」という言葉があります。「出会うことが非常に難しいこと、人と生まれる困難さ」を表す機会に使われる、お釈迦さまが弟子に話した寓話に由来する言葉です。

ある日、釈迦が弟子に人として生まれたことをどう思うかを尋ねると、弟子は「大変喜んでおります」と答えました。弟子にとっては日常での喜ばしい出来事のひとつくらいの認識だったのでしよう。そこで釈迦は、大海に棲む盲目の亀が百年に一度水面に上がってくるその時に、水面に浮かぶひとつの穴の開いた流木のその穴から頭を出すことは有り得るだろうか、と弟子に尋ねました。弟子は、「師匠、そんなことが有る

わけないではないですか」と答えたと答えます。我々もほとんどの者がそう答えるのではないのでしょうか。釈迦は弟子に「絶対にならないと言えるか。君が人間として生まれてきたことは、このことよりもっと難しいことなのだぞ」と、人間として生まれることの困難さ、その「有り難さ」を弟子に説いたのです。「有り難い」は「ありがたい」ことであり、感謝の言葉となったわけですから。

教育に携わる皆さまは、有り難くも人間として生まれることができずに、人として正しく生きるために必要な道を知識と共に教えることを職業とし、私たち警察は、法を犯し人の道から外れた者を再び正しき人の道に導くことを職業としていま

す。ありがたいことも偶然に人として生まれた私たちが、偶然にも、有り難き人を相手とするこの素晴らしい仕事に就いたことに、感謝「ありがとう」の心を胸に、生の続く限り微力ながら世のために尽くすべきと考えています。

(ごとう やすひこ)





探究心が縁を引き寄せる

イタリア料理店

シェフ 鈴木 勇吾氏

調理師専門学校卒業後、二十五歳でイタリアに渡り、四年間の修業を経て帰国する。イタリア政府公認レストラン「ラ・ビスポッチャ」の料理長に就任し、漫画「バンビノ」の料理を監修する。二〇一一年、地元の岡崎市六供町に「クチネッタ・ユギーノ」をオープン。二〇一九年、本宿町の旧代官屋敷に「ユギーノ・ユーゴ」として移転する。和と洋、レストランと地域の融合、連携などに取り組んでいる。

イタリア料理との出会いを教えてください

料理との出会いは、手に職をつけた方がよいという親の勧めで、大阪の調理学校を選んだところからです。休日は日本料理店で、社員と同じように、終日アルバイトをしました。自分で選んだからにはとことんやろうと、学校

と現場の両方で、一生懸命学びました。二十代初め、知人が紹介してくれたレストランが、イタリア料理店でした。このときから、いつかは岡崎で店を出たいという希望をもち始めました。—どのようにしてイタリア料理を究めていったのですか—

イタリア料理の経験はなかったのですが、苦勞の連続でした。料理の手順を見て覚え、関係する本もたくさん読みました。語学の勉強もしました。そのようなとき、イタリアで働いている友人からイタリアで働かないかという誘いがあったのです。一年という期間限定でしたが、極めたいという気持ちが人一倍あり、本場で探究しようと決断しました。

ところが、語学の勉強はしていったものの、言葉は通じず、相談相手もいません。毎日が見習いの単純作業の繰り返しで、心まで折れそうになりました。あるとき、試作を食べてもらう機会がありました。今までの経験のすべてを出し切ったところ、パスタ場のシェフに抜擢されました。このチャンスを生かし、本物の味を突き詰めるには一年ではだめだと思い、日本へ帰るチケットを破って、腹をくくりました。その後、さらに料理の幅を広げるため、下町のレストランや星付きのレストランなど様々な店で腕を磨きました。

帰国後、岡崎に店を出すまでの経緯について教えてください

帰国後は、イタリア政府公認のレストランで正式に料理長を依頼され、五年間勤めました。イタリア料理のすばらしさを、故郷

の岡崎で振る舞いたいという一心で、店を六供町にオープンしました。岡崎が好きで、自分の目で見て納得できる場所を選んだり、食材を探したりして、てんでこ舞いでした。それでも苦勞は感じませんでした。やはり、自分のやりたいことをやることに意味があるのだと思います。

代官屋敷に店を移転した理由と、今後やりたいことを教えてください

東京の店によくいらした岡崎の方が、六供の店にも何度か来てくださいました。その方から、旧代官屋敷を使って、イタリアレストランをやってほしいという話までいただきました。代官屋敷にまつわる話や地域活性化計画の話聞き、また、「本物の料理には本物の建物で」という言葉までいただきました。私の料理の腕を信じての言葉だったと思います。和と洋の融合で不安はありましたが、その地で料理する決断をしました。

これまで地域・歴史・旧東海道の街並みなどとイタリア料理の融合を試みてきました。さらに新しい融合として、多くの人が集まる朝市や演奏会を開催し、人と人が出会い、地域に溶け込む場を提供したいです。つながりを大切に、これからも探究心を忘れず積極的に取り組んでいきたいです。



氏名 すぎき ゆうご  
出身校 根石小学校  
甲山中学校



課題を自分事にする 総合的な学習の授業

生活科・総合的な学習指導員 廣瀬 浩司

総合的な学習の時間は「探究」の繰り返しが大切である。子供が切実感のある課題を自分事にし、解決に向けて動き出す。そして新たな課題を作り出すことが「探究」である。この繰り返しだが、深い学びとなる。

A 中学校一年生の防災学習。B 教諭は、なかなか課題が自分事にならない生徒の心を揺さぶろうと考えた。生徒は調査したり、総代に聞いた結果を基に、町内ごとの防災マップを作った。B 教諭は、あえて「君たちが作るマップは必要か」と問いかけた。「自分で調査した危険な箇所が分かる」「情報が最新」など、必要だという発言が続く。

そこでB 教諭は、市内全家庭に配付済みの防災マップの活用が十分でない事実に向き合わせるため、事前に保護者からとったアンケート結果を提示した。



アフリカに風が吹いた日

日本人学校

教諭 青山 高視

「先生は、消えてしまいたいと思っ  
たことはありませんか。」

中学二年の教室には、Aさんと私  
の二人しかいない。おでのニキビ  
を隠すように垂らした前髪の奥か  
ら、真つすぐな瞳が私に向けられて  
いた。

三学期になってから、Aさんは学  
校を休むようになった。父親の仕事  
に付き添ってきたアフリカで、頼れ  
る同級生もいない。知らず知らずの  
うちに膨らんでいく思春期の悩みが  
あるのかもしれない。Aさんの担任  
に、欠席の理由を尋ねても、「もう  
すぐインターナショナルスクールに  
転校するんで、日本の学習なんて必  
要ないと思ってるんでしよう」と  
いう大人の憶測で片付けられた。

二週間ぶりの国語の授業だった。  
気楽に雑談から始めようと思ってい  
たら、重たい質問が舞い込んできた。  
Aさんの瞳は、それが冗談ではない

ことを語っていたので、私も正直に  
答えようと思った。

「もちろんAさんと同じように考え  
たことはあるよ。一度とか二度とか  
ではないかな。」

「理由は、聞いても大丈夫ですか。」

「それは、誰にも言っていないかな。」

「そうですよね。すみません。」

うつむいて、しばらくしたあと、  
前髪の奥から涙が落ちた。

「自分には価値がないのようになって。  
将来の夢もないし。学校に行く意味  
も分からなくて。学校が終わると安  
心するんです。でも、寝るときになっ  
て、また明日が来るって考えると怖  
くなる。早く日本に帰りたい。」

閉じた教科書の上に落ちる涙を見  
ながら、私は何か言っておけたかっ  
たが、何も言えなかった。

「先生は、どうしたんですか。」

「どうしたかな。独りでこもって、  
小説を読んでたな。」

Aさんの目が、悲しみをたたえな  
がら小さく笑った。

次の授業に私は、重松清の『きみ  
の友だち』を二冊持っていく、一日  
一章ずつ読むことにした。ただ一緒  
に読んで、ただ感想を述べ合う。チャ  
イムが鳴れば授業は終わる。今のA  
さんには、そういう時間が必要だと  
思った。

第一章を読み終えたAさんは、  
『「みんな」なんてどうだっていい  
やって言える恵美はいいな。こんな

子と友達になりたい」と素直な感想  
を述べた。章が進むと、家で先に読  
んでくるようになった。

最後の授業で、全ての章を読み終  
えたあと、Aさんはゆっくりと言葉  
を探すように言った。

「解決はしないんですよね。時間が  
過ぎて、大人になって、見方が変わ  
れば、世界も変わっていくのかな。」

かつて私がどん底にいたとき、塞  
がれていく心に、新しい風を吹き込  
んでくれる何かを求めて、独りで本  
を読んでいたことを思い出した。

「本当の夢って、人と出会う中で見  
つかるものだと思う。大人になるう  
ちに、そういう出会いは必ずあるか  
ら。」

Aさんが学校を去る日、アフリカ  
の乾いた風に髪をなびかせながら、  
Aさんは、いつもより晴れやかな声  
で言った。

「先生。私、やっぱり日本に帰ら  
れます。でも、今じゃなくていい。」  
旅立つAさんの背中に向かって、私  
は「いつてらっしゃい」と手を振った。



- Q1 あなたの家に防災マップが  
ありますか。(ある・六十%)
- Q2 防災マップをすぐに取り  
出せる場所に置いてありますか。  
(二十五%)
- Q3 防災マップは、必要だと思  
いますか。(一〇〇%)

結果に驚きの声があがる。すかさ  
ずB教諭は、「必要なのに、なぜ活  
用されていないの」と切り返す。「自  
分は大丈夫だと思っている」「他人  
事だから」などと、生徒が本音を語  
り始めた。さらに「被害にあってか  
らでいいの」とB教諭が問いかける。  
生徒たちは、理想と現実のはざまで  
心を揺さぶられ、避難することが他  
人事から自分事へと変わり始めた。  
授業の終末、「本気で避難できる  
自分専用マップを作る」という生徒  
の発言を受け、一人一人がMY防災  
マップを作るようになった。そこ  
には自分と家族の命を守りたいとい  
う切実感があった。アンケート結果の  
提示、B教諭の切り返しや問いかけ  
が、生徒たちの新たな課題を生み出  
すことへとつながった。  
実社会や実生活と結び付いた課題  
を自分事として捉え、問い続けるこ  
とが、総合的な学習の時間では肝要  
である。A中学校の授業では、教師  
の確な見取りにより、生徒たちに  
とって最も必要なものを再構築す  
ることができた。このような「探究」  
の繰り返しこそが、将来必ず子供の  
生きる力につながるのである。

# どうする 家康

## 若き日の選択

### 天下泰平への道



幼少期 竹千代時代

1歳●生誕の地 岡崎城



8歳頃●手習いの地 法蔵寺



▲文機の落書きの  
写し (法蔵寺蔵)



▲竹千代が使用していた文機 (法蔵寺蔵)



二〇二三年に大河ドラマ「どうする家康」が放送される。家康は、誕生から六歳までと、十九歳から二十九歳までの約十五年間を岡崎で過ごした。若き日の家康は、まさに苦悩の連続であった。なかでも、その後の生き方に関わる「人生の選択」が三つある。

一つ目は、桶狭間の戦いで今川義元が敗れ、人質から解放された直後の大樹寺での「人生の選択」である。元康（家康と改名する前の名前）は押し寄せる信長勢の前に前途に絶望し、先祖の墓前で切腹しようとした。だが大樹寺の登誉上人から「厭離穢土欣求浄土（戦国乱世を住みよ  
い浄土にするのがお前の役目である。）」と諭され、自害を思い留め再起を誓った。己の私利私欲や名誉のためではなく、平和な世の実現のために戦い続ける決意をしたのである。

改名し、心機一転岡崎城主となった家康を待っていたのは、家臣・領民が反旗を翻した三河一向一揆であった。家康は、ここでも「人生の選択」を迫られた。一揆を起こした首謀者たちは、人質時代の苦しい生活を耐え忍んで、三河の地を支えてきた同志である。断罪か否か、苦渋の選択を迫られた家康は、断罪せず和議を結ぶことを選択し、平和への礎を築いた。これによって、四天王、十六神将をはじめとする三河武士団の絆を、より一層盤石なものとした。

徳川家存続と三河地方の安寧のため、妻子を犠牲にしたこともあった。信長から武田氏への内通の嫌疑をかけられた家康は、正室築山殿を殺害、長男信康に切腹を命じた。市内には、二人を供養するための首塚がひっそりと残っている。これが三つ目の「人生の選択」である。

「どうする」の問いは、若き日の家康を何度も追い詰めた。しかし、その苦しい選択から導き出されたのは、天下泰平への道であった。岡崎に残る数々の史跡や遺物などから家康の生き様を改めて追うことで、家康の新たな一面を捉え直したい。

民衆・家臣を「どうする!？」

22~23歳 ●三河一向一揆



▲一揆方の拠点 勝鬘寺 (針崎町)



▲一揆終結の地 浄珠院 (上和田町)

●固い団結 三河武士団



▲家康を支えた十六神将 (大樹寺蔵)

窮地を「どうする!？」

19歳 ●復活の地 大樹寺



▲登誉上人 (大樹寺蔵)



▲「厭離穢土 欣求浄土」(大樹寺本堂)



▲租洞和尚がかんぬきを振り回し、敵を追い払った大樹寺総門 (大樹寺)



▲租洞和尚 (大樹寺蔵)

年表 家康と岡崎

... 41歳 38歳 31歳 29歳 25歳 23歳 22歳 19歳 14歳 8歳 6歳 3歳 1歳

一五四二年岡崎城にて竹千代誕生。  
 生母於大の方と離別。  
 岡崎を離れ今川家の人質に送られる途中、織田家に連れ去られる。  
 父広忠暗殺。葬儀のため岡崎へ。  
 織田家と人質交換で駿府今川へ。元服。父の墓参りのため岡崎へ。  
 桶狭間の合戦で今川討死。  
 人質から解放され、岡崎城に帰還。家康と改名。三河一向一揆勃発。一向一揆平定。三河統一。  
 徳川姓を名乗る。  
 拠点を岡崎城から浜松城へ。  
 三方ヶ原の合戦で敗北。  
 信長の命令により、正室築山殿を殺害し、長男信康を切腹させる。本能寺の変。伊賀越えて岡崎へ帰還。拠点を駿府城へ。

家族を「どうする!？」

38歳 ●正室 築山殿・長男 信康の悲劇



▲築山殿の首塚がある八柱神社 (欠町)



▲信康の首塚がある若宮八幡宮 (朝日町)



●教育最新情報

◆令和四年度全国学力・学習状況調査

○調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題について検証・改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

児童生徒質問紙調査では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。さらに学校質問紙調査では、学校における指導方法に関する取組や学校における物的・人的な教育条件の整備の状況等に関する調査を実施する。

●表彰関係

◆第七十回愛知県中学校駅伝大会

○男子の部

優勝

二位

三位

○区間賞男子

二位

六区

○女子の部

優勝

三位

○区間賞女子

一区

識・技能等に関わること、また知識・技能を実生活の場面に活用する力、課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等を図る内容が出題される。

児童生徒質問紙調査では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

さらに学校質問紙調査では、学校における指導方法に関する取組や学校における物的・人的な教育条件の整備の状況等に関する調査を実施する。

令和四年四月十九日(火)

●表彰関係

◆第七十回愛知県中学校駅伝大会

○男子の部

優勝

二位

三位

○区間賞男子

二位

六区

○女子の部

優勝

三位

○区間賞女子

一区

二区 矢作北中 佐々木莉愛  
三区 矢作北中 内田 詩乃  
五区 矢作北中 秋竹 奏音  
◆JOCジュニアオリンピック  
第三十五回都道府県対抗中学  
バレーボール大会 愛知県代表  
選手最終選考大会  
優秀選手賞  
六ツ美中 加藤 大貴  
小寺晴太郎  
吉田 蓮  
木村 海斗

◆第十四回東海選手権水泳競技大会

○男子小学生の部

五十m バタフライ

一位 羽根小 杉本 直樹

○男子小学生の部

五十m 自由形

二位 羽根小 杉本 直樹

○男子小学生の部

四×五十m フリーリレー

一位 羽根小 杉本 直樹

○男子小学生の部

四×五十m メドレーリレー

一位 羽根小 杉本 直樹

緑丘小 船越 健

◆第二十七回日本管楽合奏  
コンテスト全国大会

○中学校B部門

優秀賞

竜海中

◆第十回日本学校合奏コン  
クール2021グラントコン  
テスト全国大会  
○中学校の部  
銀賞 翔南中

◆第十回日本学校合奏コン  
クール2021全国大会ソロ&  
アンサンブルコンテスト  
○アンサンブル部門中学の部  
(クラリネット三重奏)  
銀賞 竜海中

○ソロ部門中学の部  
(バイオリン)  
銅賞 福岡中 飯銅 麗

◆歯・口の健康に関する図画・  
ポスターコンクール  
佳作 六ツ美中 鈴木 悠士

◆第三十六回「WE LOVE  
トンボ」絵画コンクール  
銅賞 六ツ美西部小 松金 咲花

◆第六十五回J A共済小中学生  
書道コンクール  
○半紙の部  
金賞 矢作南小 加藤 美織

金賞 新香山中 石川桃希菜  
金賞 美川中 内田 実優  
銀賞 北野小 宇野 颯人  
銀賞 竜海中 宮原 伶歌

○条幅の部  
金賞 美合小 鎌田未奈萌  
金賞 三島小 判治 直哉

◆第五十四回J A共済小・中  
学生交通安全ポスターコン  
クール  
銅賞 北野小 田中みのり

◆第八十九回全国書画展覧会  
○書の部  
筆都大賞 竜海中 宮原 伶歌

筆都大賞 竜海中 鳥居 紗妃  
竜海中 判治 徹哉  
筆都大賞 竜南中 内田 泰生  
特選 竜南中 吉田 敢紀  
特選 竜南中 松本 彩  
特選 竜南中 西原 歩那  
金賞 恵田小 石川 乃愛  
金賞 恵田小 大山 葉奈  
金賞 竜海中 寺澤日唯奈  
金賞 竜海中 井上 翔子  
金賞 六ツ美中 近藤 沙和  
金賞 六ツ美中 石川 結翔  
金賞 竜南中 平岩 愛  
金賞 額田中 清水 萌生  
金賞 額田中 高井 翔矢  
銀賞 額田中 川本 楓花

- 銀賞 額田中 山口 季咲  
 銀賞 額田中 夏目 彩那  
 銀賞 額田中 野澤 瑞穂  
 銀賞 額田中 倉橋 尚大  
 銅賞 額田中 石原 昌太  
 銅賞 額田中 今泉 悠仁
- 画の部  
 特選 六ツ美中 小山 晏奈  
 金賞 六ツ美中 杉崎 結衣  
 金賞 六ツ美中 米倉 萌絵  
 金賞 六ツ美中 杉本 瑞季  
 金賞 額田中 高井 翔矢  
 銀賞 六ツ美中 石川 桃  
 銀賞 六ツ美中 片岡アナスタシヤ  
 銀賞 六ツ美中 後藤 愛果  
 銀賞 六ツ美中 塚越 香奈  
 銀賞 六ツ美中 日野 結架  
 銀賞 六ツ美中 石井 百花  
 銀賞 六ツ美中 市古 悠人  
 銀賞 六ツ美中 野本 太一
- 計測制御  
 二位 (全国大会出場) 福岡中 猪又 暁  
 三位 (全国大会出場) 福岡中 本田 拓義  
 池上 拓真  
 四位 福岡中 本多 琢稔  
 河野 流星
- ◆第六十五回愛知県統計クラブ  
 コンクール  
 第二部 (小学校三・四年生) 全国佳作 井田小 加藤 玲也
- ◆第七十一回全国小中学校  
 作文コンクール都道府県審査  
 ○中学の部 最優秀賞 矢作北中 竹葉 春恵  
 優秀賞 竜海中 後藤 芭和
- ◆第七十三回赤い羽根共同  
 募金児童生徒作品コンクール  
 佳作 上地小 石原 秀都  
 佳作 六ツ美中 杉浦 玲南
- ◆小学生の税に関する習字  
 優秀賞 常磐小 松田 莉桜
- ◆令和三年度「税の標語」  
 優秀賞 北野小 大久保晃介  
 ◆第四十六回「みどりの絵  
 コンクール」  
 ○みどりの絵部門 優秀賞 北野小 上山 愛恵
- ◆株式会社CBCラジオ主催  
 第六十二回小学校作文コン  
 クール  
 文部科学大臣賞 竜美丘小 竹田 湊音  
 CBCラジオ賞 小豆坂小 古溝 莉央  
 ◆第十四回東海・北陸地区中  
 学生ものづくり教育フェア  
 福井 第十九回創造アイデア  
 ロボットコンテスト
- パソコン統計グラフの部  
 全国入選 竜海中 林 美晃  
 全国佳作 竜海中 荒川 琴音  
 全国佳作 竜海中 小西 兜斗
- ポスターの部  
 準特選 六ツ美西部小 本田 結香  
 ◆フラワー・ブラボー・コン  
 クール付帯事業コンクール  
 ○花壇を描いた写生コンクール  
 愛知県知事賞 形埜小 落司 望咲  
 愛知県教育委員会賞 形埜小 柴田 光恩  
 愛知県教育委員会賞 形埜小 稲葉 万結  
 ○花と私の作文コンクール  
 愛知県教育委員会賞 形埜小 稲葉 万結  
 中日新聞社賞 形埜小 寛 瑠輝也  
 ○学校花壇設計図コンクール  
 愛知県知事賞 形埜小  
 ◆第四十六回三河の菊まつり  
 ○学校創作花壇の部 愛知県議会議長賞 豊富小
- ◆あいち青少年少女創意くふう展  
 2021  
 文部科学大臣賞 岡崎小 佐々木康之助



## 教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ  
ツ  
ト  
新香山中 杉浦貴恵

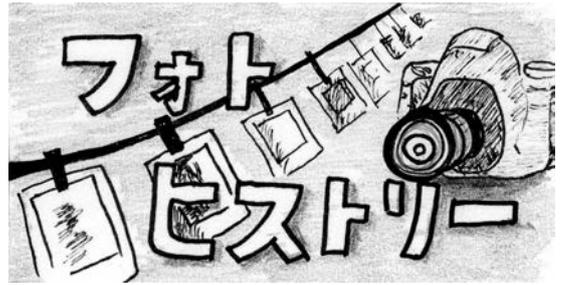
# 富田 勲 氏 講演会 (昭和50年)

写真提供：本宿小学校

この年、日本を代表する作曲家で、シンセサイザーアーティストである富田勲氏（平成二十八年逝去）の講演会が、本宿小学校で開催された。

富田氏は、本宿小学校の卒業生であり、校歌を作曲した。昭和三十五年に誕生した本宿小学校の校歌は、軽快なリズムと親しみやすいメロディーで構成されている。講演会では、電子音楽の作曲のしくみを知り、作品鑑賞を行った。氏の奏でる音に、子供たちははじつと聞き入った。最先端の技術と新しい時代を感じさせる音楽との出会いは、子供たちの豊かな感性を育む一助となったにちがいない。

地域の自然や建造物、校訓など、様々な要素を取り入れた各学校の校歌は、歴史と伝統の重みがある。そして、世代を越えて、今もなお脈々と歌い継がれている。



寅年の一年が始まった。新しい年を迎えたことで、周囲の空気さえも一新し、引き締まって感じられる。我々教師は、子供たち一人一人の顔を思い浮かべながら、新たな目標を立て、達成のための手だてを考える。挑戦することを忘れず、希望に満ちた一年にしていきたい。

## とホ

## 睦月



▲一文字一文字に思いを込めて (矢作北中)

## とホ

## ツ

つながつていく不思議な縁。鈴木さんのあくなき探究心と行動が、自らを成長させ、支えてくれる人たちを引き寄せる。

私たち教師は、自ら研鑽に励み、子供たちと共に成長していく。不思議な縁を大切に、出会う人、一人一人と真摯に向き合い、歩みを前に進めたい。



\*多賀少年野球クラブの「勝手にうまくなる」仕組みづくり  
辻 正人  
ベースボールマガジン社 ¥1,600

心に残った一文  
どの言葉を使えばその子のスイッチが入るのか。

働き方改革の一つとして、本格的に部活動の見直しが図られてきている。コロナの影響もあり、小学校は、短い練習期間での大会となったが、それぞれの学校でドラマが生まれたと聞いている。

「勝手にうまくなる」とあるが、指導者が何もせずに、子供たちが勝手にうまくなるわけがない。そこには、子供たちが勝手にうまくなったと思わせる「魔法の言葉」があった。何もしていないようで、子供を伸ばす。そこが、我々教師にとっての腕の見せ所ではないだろうか。

- \* 指示の技術 土屋 正博 ¥1,900  
学陽書房
- \* 一生幸せなHSCの育て方 杉本 景子 ¥1,600  
時事通信社
- \* シャトラーゼは、なぜ「おいしくて安い」のか 齊藤 寛 ¥1,400  
CCCメディアハウス 細川小学校 宇都木靖弘